

1からはじめる 投資の勉強！

なにかから勉強すればいいか、まったくわからないあなたに。

この無料レポートは投資を0から始める男性と、彼に投資のレクチャーをする博士の物語です。投資を0から勉強する男性の名前は”内村”。博士の名前は”コリンズ”です。レポートの場面は京都。コリンズ博士が京都でのんびり長期余暇の楽しんでいる。そんなイメージを元にレポートを作成しました。

レポートの趣旨は、コリンズ博士のレクチャーを通じて、皆さんが投資の勉強方法を習得することです。投資を始めるとき、さまざまな場面でおこる「？」に対して、このコラムで説明していこうという、少々欲張りなレポートになっています。これから投資を始め方には最適なレポートになるよう作成しています。30分もあれば読める分量ですので、ぜひ最後までご愛読ください。

■chapter1 きっかけ

「あ〜ああ・・・」内村は退屈していた。東京本社から転勤を命じられて半年。京都での生活が始まったが、どうにも土地になじめなかった。いまでは仕事が終わると、そそくさと家に帰りビール片手にCATVで「MTV」を見るばかり。

彼はバリバリ行動するキャリア志向の人間だった。本人もCATVばかり見ている今の生活には満足していない。

内村は、この退屈をなんとか跳ね返したかった。京都での生活を有意義なものにするためにも、彼は時間を楽しく使えるように趣味を探し始めていた。

「あー今日も疲れたな・・・」いつものように会社が終わり、自宅に戻ってきた彼は、退屈しの際にCATVのチャンネルを回してみた。ふと投資専門のニュースCHに変わった。

「・・・投資かぁ。そういえば全く縁のない世界だよなぁ」

幸い彼は京都へ転勤となり、転勤手当でも出ているので収入に余裕が出てきはじめていた頃だった。よくよく考えると会社の仲間には投資を行っている人が多く、資産を残している人が多いことにも気づいた。ふと内村は思いついた。

「こんなに退屈しているなら、京都にいる間に投資を勉強してもいいんじゃないか？」

「きっと今後の人生設計も立てれるし、いまの余っている時間も上手に使える！」

思い立ったが吉日。行動派の内村は思ったとたんに行動を始めた。こうして彼の投資生活は始まることになる。

だが一週間後・・・

彼はとまどっていた。いざ投資の勉強を始めようと思ったまではよいが、さっぱり手がかからない状態。やる気だけが空回りして「**何から手につければよいか全くわからなかった**」

本屋に行けば、あらゆる種類の投資法を説明した本がならんでいる。投資コーナーをのぞけばゆうに100冊はあるだろう。デイトレードからスイングトレード・長期投資・システムトレード。為替から商品先物まで。デリバティブ・オプションなどという聞いたことのない言葉の本まである。

「いったいどこから手をつければいいんだよ・・・」

焦点をさだめることができない自分にふがいなさを感じると同時に、切り替えの早い彼は、すでに1人で投資を勉強するには無理があるのではないかと考えていた。わからなくて投げやりになっていた。

「もうやめるか・・・」

その決断にいたるまでも、たいして時間はかからなかった。こうして彼の投資への情熱はたった一週間で挫折感とともに一度さめることになる。

■chapter2 出会い

それから3ヶ月がすぎ初春になった。日々の仕事にまい進し続けると、投資のことは頭からさっぱり忘れていた。しかしそれで良かった。しょせん自分には向いていないと決め付けることにした。

そんなある金曜日の夜。彼は近くのレストランで上司とお酒を飲んでいて。上司の名前は清原といった。

「乾杯！」

「おつかれ。ところで内村君・・・最近元気ないけど京都の生活にはもう慣れたかい？」

「大丈夫です。なんとか気ままにやっています」

「それなら良いんだけどね。名物の八つ橋は食べたかい？まあベタベタな名物だけど一回は買って食べてみるといいよ。」

「はい。一度食べてみますよ。八つ橋は修学旅行に来たとき以来たべていませんでした。京都にきてから、また買おうかななんて思っていたんですけどね」

「ハハハっ。そうか。会社の近くにあるお店で売ってる八つ橋はけっこう食べれたよ。今度買ってみるといい。」

・・・

そんなたわいもない話に始まり、彼らは1時間ほど喋っていた。話も落ち着いてきたときふと内村が外を見ると車が走っていた。車を見て内村は、先輩である清原が最近車を買った話を思い出した。

「清原さん。そういえば、あなたが最近車を買ったっていう話を聞きましたが本当なんですか？」

清原が待ってましたといわんばかりの笑顔で答える。

「そうそう先月買ったばかりなんだ。いまじゃあ毎週の休みは必ずドライブしているよ。この前の連休は1時間かけて友達のところまで行ってきた。」

「結構な遠出じゃないですか。お寺にでも行ってきたんですか？」

「いや・・・お寺じゃなくて、知り合いに挨拶をしてきたんだよ。車を買いましたってね。」

「わざわざ車を買った挨拶ですか・・・？」

「車を買ったこと友達に挨拶に行ったことは深い関係があるんだ」

「というと？」

「会いにいった友達は以前、僕がアメリカ転勤のときに知り合ったアメリカ人なんだ」

「はい」

「その友達は京都が好きで良く長期滞在しにきている。ちょうどこの前、また京都に来たんだ」

「はい」

「そして僕は最近車を買ったけど、お給料はそこまで使っていない」

「どういうことですか？」

「こういうことなんだ」

そう説明すると清原は鞆から一冊の本を取り出した。

「・・・えーと・・・『賢明なる投資家』ですか。これって株式投資の本ですよ」

「そういうことだ。僕が車を買ったのは投資で貯金が増えたからなんだ。」

「投資で勝ったから友達に挨拶をしに行ったと??」

「僕の友達というのは大学で投資手法について講義をしているんだ。そして僕はアメリカにいたとき、その友達に頼んで投資を教えてもらった。4年ぐらい前のことだね。」

「あー投資を教えてもらったお礼を兼ねての挨拶ですか。」

「そういうこと」

清原が取り出した本を手に取りながら内村は思い出した。ついこの間、自分が投資を始めようとして躓いたことを。

「清原さん。実は」

「ん？」

「僕もこのあいだ投資を始めようと思って、勉強を始めたんです」

「そうか。勉強の調子はどうだい」

「いや。それが本屋にいったまでは良かったんですが、あまにの本の多さにたじろいでしまいました。結局なにを勉強すればいいのかわからなかったんです」

「うんうん」

「清原さん。もし宜しかったら、あなたの友達を紹介して頂けないでしょうか？僕も投資をもっと深く学んでいきたいと思っているのです。」

内村はなにも考えず勢いで清原にお願いをしてみた。この前向きな姿勢は仕事から来ているのかもしれない。彼は常にチャレンジャーだった。

「うーん。そうだな・・・」

「僕は東京の美味しいお菓子を知っています。”庄之助モナカ”っていうんですが相撲の行事をしている方が作りだした最中みたいです。とても美味しいので、よければ友達に食べて欲しいんです」

「はっはっ。お菓子で釣るのかい！まあちょっと今度電話してみるよ。友達も休暇できているからね。ただし、どうなるかはわからないよ」

「はい！よろしくお願いします」

■chapter3 コリンズ博士

「今週は忙しいな。ふう・・・」

先週の清原との話から一週間。内村はクレーム対応に追われていた。自分のミスからではなかったがチームで動いているために、このようなことはよく起こることだった。あまりの忙しさに清原との会話もはるか過去のように思っていた。

「内村！ ちょっと時間あるかい？」

清原だった。ちょうど内村も休憩をとろうと思っていたところだ。清原に近づき話をかえした。

「なんでしょうか。清原さん。」

「この前の報告だ。友達に連絡がとれた」

「あ、はい！」

疲れていたが自然と笑顔がでてきた。と同時にお願いをしていたのを思い出した。

「タイミングが良かったよ。ちょうど休暇から1カ月が過ぎて少し暇みたいだった。それに彼はお菓子が非常に気になったみたいだ。必ず持ってきてくれと言っていた」

「では・・・」

「うん。今週の土日に京都で会ってもいいみたいだ。土曜にするか日曜にするかは君が決めてくれ。ただしお菓子は絶対忘れないこと。」

「わかりました」

「友人の名前はコリンズだよ。コリンズ博士で通っている。電話番号はこの紙に書いてある」

「ありがとうございます。清原さん。なんと云ったらいいか・・・」

「いやその分仕事にメリハリが出てくれればいいよ。君も京都にきてから、そこまで元気がなかったし、仕事以外になにか趣味をもてれば自然とやる気も出てくるだろう。投資の勉強に集中しすぎて仕事がおろそかになってお困るけどね。まあ投資で勝ったらいっぱい奢ってくれ」

「はい！」

既にそのとき内村は土日のことで頭がいっぱいだった。今週の忙しさもふっとぶような勢いだ。

・・・

土曜日に入り、内村はさっそく電車に乗っていた。目的地までは1時間弱、しっかりとモナカも買って来た。この前の電話で午後には博士と会う約束を交わしている。

「どんな人なんだろうか・・・」

内村は電車に乗りながら1人考えていた。

「投資の専門家といっても教え方は上手なんだろうか？僕が本を買いにいったときにあれだけ迷ってしまったが・・・」

少し不安もあった。自分でお願いしておきながら、いまいち投資を勉強できる自身がわきあがってこなかった。

電車が京都駅についた。内村は約束の場所へ向かう。といってもそれは博士が泊まっているホテルだった。30分もしないうちに部屋の前に内村は立っていた。

ドアをノックする。

「どなたですか？」

「はい。昨日お電話しました内村です。清原さんの部下になります。」

「おーおー。電話で聞いていた彼ですね・・・どうぞ入ってください。」

部屋のなかに案内されると、まず景色が目についた。桜が咲いている。

「綺麗な部屋ですね。桜が見えるなんて」

「そう、ここは僕のお気に入りの部屋でね。長期休暇をとるときは必ずここにとまることにしているんだよ。春は特に素晴らしい。見てのとうり桜が見えるからね。心が癒されるよ。で内村君。さっそくだがモナカは持ってきているかね」

コリンズ博士は待ちきれないように、内村が持っていたお菓子の袋を眺める

「はい。この一番大きい30個いりのものを買ってきました。」

「そうかそうか。ではお菓子を食べながらレクチャーしても良いかな。君も相当忙しいとのことだから、喋りながらさっそく簡単なレクチャーに入ろう。お昼ご飯は食べたかね。」

「はい。駅で済ましてきました。」

「じゃあ飲みのもだけでいいね。ちょうどコーヒーを入れておいたから飲んでくれ」
部屋にはテーブルがあった。博士はそこにすわるとお菓子の箱を開きはじめ、食べたながら話を始めた。

「じゃあ。内村君。前に座って。話を始めようじゃないか」

そう言われて内村は前に座った。

「さて。君は投資を勉強したいとのことだけど、君の投資についての話を聞かせてくれないかな。それがわからないと、これからどういう方法で投資を勉強していくべきなのか説明のしようがないからね」

とコリンズ博士はくつろぎながら話を始めた・・・

■chapter4 レクチャー

コリンズ博士の質問からレクチャーは始まった。内村が答える順番だ。

「はい・・・（正直に言おう）。実は私は以前に一度投資の勉強をはじめたことがありました。本屋に足を運んで一冊買おうと思ったんですが、どれを読めばいいのかさっぱりわかりませんでした。結局1冊も買わずにそのまま勉強をやめてしまったままです。正直、投資というものにたいしてのアプローチが全くわかりません。けれど覚えたい・学びたいという気持ちは持っています。」

続けて内村が話す。

「できれば、これからの将来、自己の貯金を投資で運用したいと思っています。そのために投資と言うものを学び理解することで、何十年と投資と付き合えたらと考えています。」

「つまり、それは投資で生活をしたいということですか？」

「ええ。しかし本業は続けたいと思っています。」

続けて内村がしゃべる。

「私がいまこうしてこの場にいられることは、1つの小さなきっかけからでしたが、出来ればこのチャンスを生かしたいと思っています。少ない時間で結構ですからどうか知識を享受できる場をおつくり頂けないでしょうか？」

「うん。やる気はあるみたいですね・・・。ここまで正直に教えを乞う人はなかなかいませんよ。君はめずらしいタイプだね。」

「よく言われます。」

「では・・・簡単なところからレクチャーしていきましようか。ただ・・・。」

「ただ？なんですか？」

「内村君には覚悟を持ってもらいたい。私も奉仕活動で教えるわけにはいきません。なぜなら、あなたとの面識はほとんどありません。途中でやめられたら、それこそレクチャーした時間が骨折り損です。やるなら最後までやって頂きたい。」

「それと約束を3つしてもらいます。」

「1つ目は簡単です。1年後でも2年後からでもいい。あなたの周りで投資に情熱を燃やす人がでてきたら。あなたがレクチャーをして上げてください。いまの私と同じように。」

「2つ目は少々難しいかもしれませんが。100万円を用意してもらいます。」

「3つ目は一番難しいところで。そして一番大切なところです。それは“自分で調べる癖をつけること”です。なにか問題があったときにすぐに私のところへ聞きにくるのではなく、自分で考え噛み砕き、リサーチする癖をつけることです。これが出来ればまずレクチャーは成功するでしょう。」

「はい。1番と3番はわかりました。しかし、いま預貯金は多少あるのですがすぐに100万円用意しろとなると・・・」

支払える額ではあったが現在の内村にとって100万円は大きな額だ。正直すぐに支払うのは厳しい。

「ではこうしましょう。お金の代わりにあなたの時間を私にください。私もアメリカに帰れば仕事がありますから。レクチャーをしている期間は仕事の簡単なお手伝いをお願いします。もちろん君にも仕事があるでしょうから、そのあたりは当然考慮します。」

「わかりました。ぜひそれをお願いします。考えて調べる癖をつけ、雑務のお手伝いをします。それから・・・」

「いずれはあなたが人に教えるということですね」

「はい。もし私が投資のスキルをつけることができたなら、私が教わったように周りの人に教えることを約束します。」

「もしではなく、確実にスキルをつけてもらいます。投資の世界で結果を残すには、特別な才能はいりません。地道な知識の積み重ねが結果を残すのです。しいていえば努力する才能がないとダメですけどね。反対に言えば知識を積み重ねられる人がいれば、その人が投資の世界で生き残る可能性はぐっと高まるということです。」

「はいっよろしくおねがいします！」

「じゃあ内村君。さっそくだが宿題を出すよ。君は今日京都に泊まる予定と聞いている。明日もう一度、この部屋に来て質問に答えて欲しい」

「わかりました。では質問をお願いします。（いきなり宿題か・・・いや頑張ろう！）」

「宿題は“最初に投資のなにを勉強したいか考えること”を考えることです。1日じゃ足りないかもしれませんが、時間がないのでなんとか答えを見つけてきて下さい」

「わかりました」

「よしっ。じゃあ今日はこれぐらいにしておこう。君も少しは京都の町を見てまわるといいでしょう。もちろん宿題を考えながらね。」

■chapter5 宿題

次の日。京都は快晴だった。相変わらず桜が綺麗に咲いている。

トン！トン！内村は再び部屋を訪れてドアをたたいた。

「内村君かい？入ってくれ」

部屋に入ると、既に博士は昨日と同じ場所に座っていた。内村も自然と前に座る。

「じゃあ昨日の宿題だが。さっそく答えを聞かせてくれ」

「はい。昨日の宿題は“最初に投資のなにを勉強したいか考えること”でした。あれから私なりに考えてみました。しかし考えはまとまらなかったなので、もう一度本屋に行くことにしました。書籍を前にすればなにかヒントが貰えるんじゃないかと思ったからです。」

「うん。本屋にいった何かヒントはあったかい？」

「それが・・・デイトレード、バリュー投資、中国株投資、先物投資、為替。タイトルを見ると全て興味深いタイトルではあるのですが、少なくともどの1冊を、どのカテゴリーを選べばよいのかまったく検討もつかなかったのです。僕にどの投資方法が最適なのか選ぶ基準がわかりません・・・」

「では答えは」

「投資についてわからないことがわからない。そんな状態です。なのでわからないことが鮮明になるように、まず勉強したいです。わからないことが明白になれば“何を勉強すべきか”も自然と見えてくるのではないのでしょうか。」

「なるほど。わからないことすら“それがなんであるかわからない”ということですね・・・うんOKです。今回は少しいじわるをしてみました。」

「と言いますと？」

「前回のお話を聞いて、君の状況は大体把握できていました。おそらく情報量の多さに参っているだろうと。君が導き出した答えも、あるていど予想できた答えです。」

「最初に投資に参加するものにとって現代の情報量はかえってマイナスになります。もしこ

れが本屋にあってデイトレードの本しかなければ、みな心置きなくデイトレード一本に絞って勉強するんだらうがね。しかし現実はそうではありません。多くの情報から良いと思えるものを自分で選択しなくてはなりません。」

「そして内村君のように初めて投資に参加する人や初心者が、自分でその道を見つけるのは困難なことです。なぜならその道が良いかどうか判断するには、それなりの知識が必要になってくるからです。知識がないから道を探しているのに。道を探すのには知識が必要なのです。これも皮肉な話ですが、超えなくてはならない壁です。」

「では初心者全員、投資の技術を学ぶことは出来ないのでしょうか？」
内村が困惑した顔で質問する。

「いや、必ずしもそういうことじゃないんだ。当然自分でみつける人もいるだろう。私だって。勉強をして勉強をして。実際に投資をして、正しいと思える知識を身につけるまでに試行錯誤を繰り返しました。しかしそれは数年。いや10年間という長いスパンをかけて実につけたものです。」

「10年ですか・・・」

「そんなに残念がらないでください。あくまでも私の例ですからね。私は当時、完全に1人で投資と戦っていました。1人です。全て自己勉強です。しかしいま内村君にはこうして教える人がいます。私の教え方が間違っていなければ、試行錯誤する無駄な時間は省かれることになるでしょう。」

「はい」

「もちろん試行錯誤するつまらない経験もとても大切なことです。そこを軽んじるわけにはいきません。けれども君は正しい選択肢をまっすぐ進むことで、私がたどり着いた場所に比較的短い時間で到達することが出来るのです。もちろん努力は必要です。」

「はい。では最初に投資のなにを勉強すれば宜しいのでしょうか？」

「まず。簡単なところから説明しましょう。」

1. **どんな投資方法があるのか理解する**
2. **1つの投資方法にしぼって学ぶ**

「まず覚えるべきことは。この2点。」

「はじめて投資に参加する人が勉強することに迷うのは、あまりにも投資の種類や、投資の情報が多きことに寄与している。そのため迷いが生じ、どこから手をつけたらいいかわからないということが多く起こる。」

「うーん…確かにそうなんですよね。私も本屋にいきましたが、どの本が良書なのかそれすらわかりませんでした。結局一冊も買わなかったのですが」

「数多くの投資種類があるといっても、すべてを覚える必要ないんだ。収入を得たいという目標をクリアするだけなら、1つだけでも完全に投資法をマスターすれば達成することが出来るからね。」

「はい」

「だから内村君。君にどのような種類の投資方法があるのか、どのような投資先があるのかを説明するよ。そこから自分の性格や資本と照らし合わせて、実践できそうな投資方法を1つだけ選択してくれ。一番よくないのは**全ての投資方法を学ぼうとして頭がごちゃごちゃになること**。Aの投資方法で良いとされてきた手法が、Bの投資方法では全く使えないなんてこともありますからね。最初に覚えるのは1つだけでOKだ。そしてそれを深く考察して学ぶこと。そのためこれから投資方法の種類とリスクとリターンを説明するよ。」

「はい。わかりました。」

「もう一度言うけど君は、複数の投資手法のなかから自分の性格や資本にあった投資法を選択するんだ。そして1つの投資法に焦点をあてたら、その投資法をまず徹底的に勉強する必要がある。デイトレードならデイトレード。バリュー投資ならバリュー投資といった感じにね」

「では投資方法というのはどのくらいあるものなのでしょうか？」

「うん。じゃあ簡単にわかりやすく説明してみよう。これをみてみてくれ」

【投資先】

■株式

■為替

■商品先物

■債権

「シンプルに考えよう。」

「まず投資先にはこの4つがある。もっと深く突っ込めば不動産だったり投資先はもっとあるけどね。まずは4つでOKだ。始めて投資に参加するのであればお勧めは株式投資だろうか。やはり内村君にもなじみが深いでしょう。為替や先物はレバレッジとって、自分が預けるお金の何倍もの金額を購入することができる。そのため変動が激しいから、どちらかというと中級者～上級者むきの投資先になるね。はじめて投資に参加するのであれば、株式投資で問題ないだろう。ただ投資＝株式という固まった観点をもつ必要はないよ。内村君が学ぶことさえ怠らなければ収益を掴むチャンスは先物でも為替でもある。」

「はい！」

「次にトレードの種類だ。簡単に説明してもこれだけの投資方法が存在している。」

【トレードの種類】

- デイトレード（数分～1日単位）
- スイングトレード（数日～数ヶ月）
- 割安株・成長株投資（数ヶ月～数年）
- システムトレード（システムが信号を出す期間）

「各トレードの種類について特徴を説明してみよう。まずデイトレードだけど、これは常に画面に張り付いていないと出来ない投資方法だよ。君のようなサラリーマンの方がやるには時間的に難しい投資方法だ。銘柄の売り板・買い板をみて瞬間的にトレードを行う。1, 2分で売ったり買ったりを繰り返す人も多い。」

「次はスイングトレード。銘柄の特徴や、テクニカル分析を行い中期でトレードを行う。2～3日、または数週間単位で銘柄を保有する。」

「次は割安株・成長株投資だ。バリュー株投資とも呼ばれているね。これは長期で保有することを前提にしている。数ヶ月～数年の単位でもっていることになるね。ファンダメンタル分析とって企業の業績や資産状況を調べて購入する銘柄を探すことになる。」

「システムトレードは専用のソフトを使って売買をするんだ。ソフトが購入の信号を出せば

売買をすることになる。」

内村が言葉を発する。

「うーん。投資方法といっても種類がたくさんあるんですね。もっとわかりやすくリスクとリターンがわかればよいのですが・・・」

「もちろん、どの投資方法をとってもリスクがあるよ。お金が減らない投資先などはありませんからね。ただ私がここで言いたいのは時間的なコストも考えて欲しいということだよ」

「時間的なコストですか？それは一体なんなのでしょう？」

「内村君もいま働いているからわかると思うんですが、投資を行う人間がみな、投資だけに専念できるわけではないよね？専門のトレーダーはごく一部の人だ。通常は仕事の合間に投資を行う人がほとんどだろう。」

「確かにそうですね。」

「そのため投資にかかる時間は限られてくる。とくに株式市場が開いている 9:00~15:00 の時間帯は、まさしく忙しく仕事をしている時間帯だよ。」

「はい」

「だから、これから投資を覚えるのであれば、どの種類の投資方法がどれくらいの時間を浪費するのか理解しなければならぬ。そして自分の使える時間と、その投資方法がマッチングするか考えてなくてはならないよ。せっかく投資方法を勉強しても実践で使えなければ意味がないからね。」

「そうになるとデイトレードなんかは難しそうですね。仕事をしていますから。」

「そう。デイトレードは画面を常にみていないと出来ないトレードだから、昼間の時間帯をフルに使える立場にいないと難しいだろう。そういった時間的な概念を気にする必要もあるということだ」

「わかりました。自分にあっている投資方法がどれか少し考えて見ます」

「うん。どんな投資先があって、どんな投資方法があるのか。それを区別して理解すること。時間的なコストを考えて、自分の忙しさでも実践できる投資方法であること。まずここまで落

とし込んで考えてみてくれ。あとは1つの投資方法を選択して勉強を始めることが大切だよ。」

「はい」

「単純なことだけど、いろいろな投資方法を少しずつ勉強するよりも、はるかに勝算は高くなることは間違いないだろう。投資方法を1つに絞ることが出来れば、見るべき書籍やインターネットを使って調べる事柄もわかってくるからね。」

「ではどれが私にあった投資方法なんでしょうか？」

「それは自分で考えないといけない。これから投資に参加するのであれば“自分で考える癖”“自分で調べる癖”をつけないといずれ投資の世界から撤退することになるからね。勝っている投資家はみな調べることを怠らないものだよ。クオンタムファンドとって伝説になったファンドを運用していたジムロジャースも口癖のように言っていることだ。」

「ジムロジャース？・・・ではどのように調べればよいのでしょうか？」

「本当はその質問も自分で考えるべきだが・・・いいでしょう。一番最初はなにもわからないことが多いからね。」

「例えば。株式投資の世界には”PER”という言葉がある。はじめて株式投資を学ぶ人はまったく理解しがたい言葉だろうね。私もよくわからない用語に頭を抱えていたよ。だけどこの言葉は理解しないとイケない。なぜなら必須だからだ。」

「問題はどうやって調べることを行っていくか。その1点にある。といっても答えは簡単。調べるにはパソコンを使って欲しい。」

「パソコンですか？」

「そう。いまではインターネットが発達してるよね。10年前であれば、この言葉1つ調べるのにも大変苦労したものだよ、ところが現在では1分もあれば調べることが出来る。本当にありえないくらい便利になったと思うよ。肝心の調べ方は、ヤフーやGoogleなどで【PERとは】で検索をかけるだけだ。それだけでPERを説明しているページが数十、数百とでてくるから。あとはページの内容を読んで理解するだけだってことだね。」

「はい。わかりました。実はいまノートパソコンを持っているので、それで調べてみます。P

「PERは僕にもさっぱりわからない言葉ですから。」

「ではPCを立ち上げて調べてみよう、待っているよ」

・・・

「あのう。・・・PERで調べてみたのですが、そのページにもわからない語句があります。PERを調べているのに、他のわからないことが出てきてしまいました。難しい専門書を読んでいるみたいで内容が全くつかめません」

「そうだろうね。最初は全てがわからないからね。だけど投資をはじめ、かつ投資に勝つのであれば、そういった語句はわかっていないと難しい。**わからないことがなくなるまで調べつづけるしかありません**。投資で勝つならこういった地道な作業が必要になってくるよ。」

「もし内村君が知識を吸収する時間がないのであれば、あとは投資に勝っている人についていくしかありません。例えば最近の京都で有名なのは100億円を稼いだ部長がいるタワー投資顧問のような優秀なファンドに投資するような形ですね。この場合は自分でお金をあずけて、あずけた先の運用に任せるといったものになります。」

「しかし、それでもいま内村君が調べていることは着実に自分の力になっています。なにより投資方法を1つに絞っていますから、調べることも明確になっているし、調べる範囲も狭くなっている。その投資法の本を買ってきて、読んでわからないことを調べればいいのだから。もし投資方法を1つに絞っていないとどうなるでしょう。やたらと読むべき本が増え、調べることも焦点が定まらない。そもそも買うべき本もわからない状態だったのだから、すごい進歩だと思わないかい？」

「調べるのがわかる。そして調べる。やることはしばらく**これだけで十分**。余力があれば、実際に最低単位で投資をはじめてもらうのが良いんだけどね。最低単位の売買であれば負けても数万円のレベル。経験がつくことを考えたら安い買い物だとは思うよ。」

「わかりました。調べるのは非常につらそうですが、1つ1つわからない意味をつぶしていきます。」

「そう！それがベストな方法だよ、簡単に説明してみたけど最初にやるべきことは、こんなところでしょう。シンプルですがとてもやってみると大変なことです。調べるといっても本当に理解するまでには数ヶ月かかるんじゃないかな。ただ、わからないことがなくなるときには、既に投資家といえるレベルになってると思うよ。基本的なことだけど、最初に行うことはそれが全てだよ。」

まとめ

- 投資法の種類を知る。各投資法のリスクとリターンを知る
- 投資法から1つに絞って勉強する
- わからないこと・語句の意味をインターネットで調べる

「それと新聞や雑誌を読むということも効果的だよ。ただこれは直接的に投資技術があがるというよりも、地味に知識のバックボーンが増えていくという感じですから、新聞や雑誌を1年よんだからといって投資に勝てるわけではありませんけどね。しかし投資スキルがある状態で、そういった新聞や雑誌からの知識が加わればより勝率は高まることになるでしょう。」

「はい。わかりました！時間はかかりそうですがこれから1つの投資法方を選んで、それに関連した本を読みたいと思います！ありがとうございました。」

「じゃあ今年の秋に僕はまた京都に来るだろうから、そのときに進捗状況を教えてもらおう。また状況を見てレクチャーを進めるよ。どうしてもわからないことがあったらメールを送信してくれ。メールアドレスはこの名刺に書いてある。」

「はい。ではよろしくお願いします！」

これ以降のレクチャーは、ドリームフィールズ公式サイトにて発表しています。
<http://www.dream-fields.co.jp/>

内村は投資を学び始め、いろいろな問題にあたります。
その問題を実践的にわかりやすく解説していく予定です。